



新春対談

三好市長 黒川 征一 三好市議会議長 山子 凱雄

聞き手：ICN アナウンサー 石井 真紀

昨年を振り返りながら
新年の抱負をお願いします

【市長】

昨年は、ウエイクボードのアジア大会、ラフティング世界選手権のプレ大会など国際大会が日本で初めて三好市で行われ、大きな注目を浴びました。11月には、「三好市生涯活躍のまちづくり計画」が四国で唯一内閣府から認定され、三好市が今後元気で活躍できるまちとして、お墨付きを国から頂いたとして嬉しく思っています。この流れを西年のごとくしつかりと羽ばたいていきたいと思っています。

さなければならぬと思っております。

今年はいよいよラフティング
世界選手権が本番を迎えますが

【市長】

本年はいよいよラフティング世界選手権の開催を迎え、世界中からたくさんの方の選手と観客が三好市に来られます。プレ大会での課題を精査し、万全の体制で本大会に臨み、世界の吉野川、世界の大歩危・小歩危となるよう取り組んでいきたいと思っています。

ジオパーク認定に向けて

【市長】

ラフティング世界選手権の会場である大歩危は、国の天然記念物と名勝に指定されておりますが、かずら橋や剣山、山城の妖怪、箸蔵寺、雲辺寺など自然や文化、食に至るまでの三好市の観光資源を最大限に生かし、そうした観光資源を一つの名勝にしていきたいとの思いでジオパーク認定に取り組んでいきたいと考えています。三好市の歴史を知る、興味を持ってもらう、



保全・保護活動をするといった持続可能なまちづくり活動のきっかけとなることを期待するとともに、「三好市まるごと観光」を進め、観光誘客を進めていきたいと考えております。

行政にどのように政策提案を
していきたいと考えていますか

【議長】

議員の任期は4年ですが、この4月に入りますと残任期は1年です。これまでの3年間の総括と、そして残り1年の中で将来の三好市を描いて政策を提案していかなければならないと思っております。

今の三好市は、交流人口は増大していますが、定住人口の減少が続いています。新卒者に少しでも市内や近隣に残っていた

サービスを実施する総合的なまちづくりを行うこととしております。今後、国の支援などの活用を念頭に、事業計画の策定や先行的な投資など積極的に取り組み、三好市の元気を創っていただきたいと考えています。

最後に市民の皆さまに
一言をお願いします

【議長】

今年も西年であり、羽ばたく年となるよう願っております。何よりも市民の皆さまが健康であることを心から願っております。議会も行政と一体となつて市民の健康や安心・安全に重きを置きながら知恵を絞る時代であります。また国に対して予算要求をして、三好市内の中でそのお金が回っていく、そのよ



き、ここで働いて所得を上げて定住できる環境づくりをしなければならぬと思っております。そうした中で休廃校を活用したサテライトオフィスの誘致や定住の施策を打ち出して少しずつ成果が出ている状況ですが、本来の経済を支えてきた基幹産業、公共事業が減少しており、そのための施策をどのように展開していくかも提案をしていくべきであると思っております。市の財政も勘案しなければなりません。市民の皆さま方からご意見を承って任期の中で努力をしていきたいと思っております。

政務活動費の公開について
どのようにお考えですか

【議長】

全国的に政務活動費が大きな問題となつております。政務活動費も皆さまの税金の中から頂いておりますので議員として公正に支出をしていくのは当然であります。また、議会として情報公開を進めるべきであるということで、領収書までインター

うな仕掛けを作っていくことにも取り組んでいかなければならないと思っております。市民の皆さま方にもいろいろな点で激励、ご意見を承りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

【市長】

三好市では四国で初めて「健康づくり条例」を制定し、健康寿命の延伸に向け取り組んでいます。平均寿命と健康寿命のギャップを少なくしていくことが住む人の元気が出ることを考えています。子どもたちが「ここ生まれよかつた、住み続けたい」と実感してもらえよう、市民の暮らしに寄り添ったまちづくりを進めてまいりますので、今後とも多大なるご支援、ご協力、叱咤激励を賜われますようお願い申し上げます。本年が市民の皆さまにとりまして、希望に満ち溢れ、健康で幸多き年でありませうご心からご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。